
純子～君の笑顔～

畑野いよかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純子君の笑顔

【Nコード】

N17640

【作者名】

畑野いよかん

【あらすじ】

すみこ
純子

君はあの事故で俺との記憶を忘れない代わりに俺の顔を忘れてしまった

すれ違っても君は俺に気がつかない
優しく微笑みかけても怪訝な顔をするだけだ

もうあの笑顔を二度と俺には見せてはくれない
もう二度と俺の顔は思い出せないのだろうか

思い出したら……もう一度……君と恋がしたい

出会い

「じゅんこ！」

男の人が叫んだ。

私は思わず振り返った。

振り向くと?? おおかた走り出してしまったのであろう?? 父親と思われる男性が小さな女の子をおいかけていた。父親が女の子に追いつき抱き上げると、そのまま肩車をし女の子は喜んで笑っていた。

その微笑ましい光景に純子は微笑んだがすぐにその笑みは悲しげな表情へと変わった。

あの人が呼んでくれた名前……。

もう一度あの人で呼んで欲しい。

だけど、呼んでくれるあの方はもういない……。

「出席をとります。名前を呼ばれたら返事をして下さい」

桜咲く季節。私はこの時間が嫌いだった。
新学期のこの時期、各教科毎に教師が違ったため、一週間に何度この時間があるんだろう。

私の名前は神崎純子。

純子と書いて『すみこ』と読む。

決して珍しい名前ではないと思っているが一度で呼ばれた試しはない。

学校に提出してある名簿には読み仮名をふって出しているのだが……。

教師達はちゃんと見ているのかしら？毎回読み間違えられた名前を言い直すのを純子はうんざりしていた。

また言い直すのか……。

そんな思いで名前が呼ばれるのを待っていた。

「???じゃあ次、神崎『すみこ』さん」

「先生、『じゅんこ』じゃなくて『すみこ』です」

名前が呼ばれた途端、あまりよく聞きもせず訂正を口にした。

大抵の教師は「あつごめん、すみこさん……ね」と謝るのだが今回の教師は何も言わない。

顔をあげ教師を見た。

「だから神崎『すみこ』さんよね？」

教師がキョトンとした顔で聞き直した。

「……はい」

「素敵な名前ね」

教壇に立っている教師はにっこり微笑んだ。

「次は??」

教師は出席を続けた。

名前を間違わず呼ばれたのは二度目だった。

初めて間違わずに呼ばれたのは小学校四年の時。
その先生は定年間近のおじいちゃん先生だった。

??「キレイな名前だね」

初めて間違われずに名前を呼ばれたのと、自分の名前が誉められたら嬉しさで心がいっぱいになった思い出がある。

授業終了を知らせるチャイムがなり教師は教科書と出席簿をもち教室を後にする。

「先生！」廊下へでた純子は教師を呼び止めた。

「先生、さっきはすみませんでした」

純子が謝ると教師はにっこりと微笑み

「いいえ、素敵な名前ね。大切にしてね」と言い職員室へ歩いていった。

「じゅんじ」

呼ばれて振り向くと西根修一にしねしゅういちが歩いてくる。

「す・み・こ！何度言えばわかるの？あーあ、修一のせいでせつかくの気分が台無し」

と文句を言ってやった。

修一は高校生の時やっていたバイト先で知り合った一つ年上の男性。友達以上恋人未満という微妙な関係であった。

受験に集中するため数ヶ月前にバイトを辞めてしまったのだが、大学の入学式でばったりあい、お互い初めて同じ大学だと知ったのだった。

「いいじゃん。別に減るもんじゃないんだし」

修一にはバイト中に何度も名前を間違えられ、いちいち訂正するのも億劫になってきた純子はそのままにしていたのだ。それゆえ純子を『じゅんこ』と呼ぶのは修一しかいないわけだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1764o/>

純子～君の笑顔～

2010年10月9日16時39分発行